

I 学校の概要

ICT活用推進実践校事業 三豊市立山本小学校

◆ 児童生徒数及び教員数（令和6年4月1日時点）

児童	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	全校	教員	25名
	2学級 40名	2学級 52名	2学級 42名	2学級 44名	2学級 56名	2学級 53名	12学級 287名		

◆ 学校の特徴

本校の教育目標は「つながれ」「挑め」「役に立て」である。昨年度から、ICTを効果的に活用し、対話に重点を置いて取り組んできた。本校のICT環境整備としては、全児童、全教員への1人1台タブレット端末の配布、全教室のWi-Fi整備と普通教室の電子黒板整備が完了している。また、市のICT支援員の派遣もあり、タブレット端末のメンテナンスや授業での支援など、GIGAスクール構想に基づいた実践が行われている。教員のほとんどが、積極的に授業の中でICT機器の活用を実践し、児童の活用スキルも向上してきた。また、ICT機器を活用した授業研究を進めていく中で、各授業の内容が「教科のねらいに合っているのか」、「この場面でICTを使うのか適切であるのか」と立ち止まって考えることも増え、効果的な活用をより考えることができています。

一方、まだ、話し合い活動やプレゼンテーション技能には課題が残ったままである。それらを踏まえ、本年度は、児童の実態や教科ねらいを十分に考え、「アナログとデジタルの最適なバランス」を全教員で試行錯誤し、ICTの効果的な活用を通して、主体的に自分の考えを深め合う児童の育成に取り組んでいきたい。

II 研究の概要

主体的に学び、考えを深め合える子どもの育成

～ ICTの日常的・効果的な活用を通して ～

◆ テーマ設定の理由

「主体的に学ぼうとする子ども」を育成するためには、個々の実態を把握するとともに、学級の強みや弱みを見極めて日々の授業に臨むことが重要である。また、児童の興味・関心に応じた学習課題を設定し、多様な考え方や協働的な学びをしながら課題解決に取り組むとともに、個に応じた学びを行い、児童たち一人一人が達成感を得ることができる授業が求められている。

本校の教育課題は、基礎学力の向上と特別支援教育の充実であり、学力の二極化も顕著である。児童は端末の使い方にも慣れ、学習意欲は向上したものの、授業中における話し合い活動やプレゼンテーション技能にはまだまだ課題があり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実までには至っていない。

さらに、児童が主体的に学び、互いの考えを深め合う学習を行うためには、教員のICT活用スキルの向上も必要である。教員のICT活用研修、市が導入しているAIドリルの配信機能等も活用し、授業だけでなく、日常的にICTを活用することで、主体的に学び、考えを深めることのできる子どもの育成を図ってきたいと考える。

◆ 研究内容及び方法

- ① 各教科における情報活用能力を育成するための指導計画、教材、指導方法等の工夫
- ② ICT 活用による授業中の発表や話し合い等の協働学習の工夫
 - ・ 個々の学びをまとめる → 発表する → 発信する
 - ・ ワープロ機能、画像機能、動画機能等の活用
- ③ 情報活用能力学習目標リストに基づいた領域別レベルの確認
- ④ 教職員の ICT スキル向上を図る研修の推進
 - ・ 校内研修での提案授業
 - ・ 市の ICT 巡回支援制度、ICT 活用チャレンジサポーター制度の活用
(市が導入している AI ドリル配信機能の効果的活用も含む。)

Ⅲ 研究の評価方法

- 学校独自の漢字・計算テストにおける年間を通じた平均点の数値結果の分析
- 全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査の質問紙における、ICT 活用項目についての数値結果の分析
- ICT 活用や深め合う学びについて、児童生徒と保護者、教職員に対するアンケートの実施と結果の分析
- 公開を行う実践を通じた、児童生徒の言動や振り返りの記述等の変容の分析
- 定期的に県教育委員会から派遣される指導主事に指導・助言を仰ぎ、取組の評価を得る。